

金日成主席は国際主義の亀鑑

ヨーロッパ・チュチェ思想研究会理事
ミハイル・パンチェンコ

道徳信義心をそなえた朝鮮労働党の金正恩総書記は、金日成主席の輝かしい業績を深く研究しなければならないと述べました。

金正恩総書記は、特に金日成主席が民族問題の解決で遂行した決定的役割について強調しました。

金正恩総書記は次のように述べています。

「金日成同志は史上初めて社会主義偉業を民族の自主偉業と一つに結びつけ、社会主義建設の全過程で民族のすぐれた伝統と文化が開花するよう導いた」

実際に金日成主席は、民族の精神そのものを抹殺してきた外部勢力の占領から朝鮮を救いました。

金日成主席は、卓越した反日革命家である金亨稷先生の教育を受け、幼年時代に早くから日本帝国主義に反対する闘争を開始しました。その後は、帝国主義連合勢力に反対する祖国解放戦争、分派・事大主義者に反対する闘争をくり広げました。分派・事大主義者は民族を裏切り、隣の大国にたいする事大主義に走りながら、朝鮮民主主義人民共和国の自主権を外部勢力の統制下に置こうと策動しました。

金日成主席は、真の国際主義者の亀鑑でした。

金日成主席は特出した外交実力で、それぞれの民族を帝国主義との闘争に結束させるために積極的に努力しました。

金日成主席は、隣国と反帝共同戦線を形成して日本帝国主義を撃滅し、帝国主義者の軍事的脅威から、これらの国を守る上で大きな役割を果たしました。

金日成主席は、非同盟運動の陣頭に立って革命をおこなう国の人民の自主性を目指す闘争を支援しました。

金日成主席は、朝鮮民族だけでなく、すべての人民にとっての師でありました。

金日成主席は、自主性を目指す人民大衆の闘争と世界の自主化に関する学説であるチュチェ思想を創始しました。

金日成主席は、著作「朝鮮革命の進路」の中で初めてチュチェ思想の創始を宣布し、全世界のすぐれた思想家の知識と朝鮮人民の伝統を体得し、天才的な英知でそれを豊富化することにより、この思想を完成しました。

チュチェ思想は、もっとも先進的な思想です。それは金日成・金正日主義が、

民族主義と国際主義との関係を最終的に規制したからです。

金日成主席は「社会主義的愛国主義はプロレタリア国際主義と結びついています。自国の革命に忠実な人であってこそ国際労働者階級の革命偉業に忠実であり、また真の国際主義者になってこそ真の愛国者になることができます」と述べました。

金日成主席が発揮した国際主義の具体的な実例を見ることにします。

金日成主席は、ソ連人民の友人でした。

金日成主席は、第2次世界大戦の時期、われわれと肩を組んで戦いながら、わが人民を支援しました。金日成主席は祖国戦争時期の戦闘現場を見て回るとき、ブレスト要塞の解説員が、ブレストも朝鮮のように苦痛をなめたと涙ながらに言いましたが、その時、自身も涙が出るのをやっところらえたと書いています。

金日成主席はまた、ソ連で社会主義偉業を台無しにし、自主性を失った隣国にも、それを強要した修正主義者の誤りについて、ソ連人民に明白に警告しました。

金日成主席は次のように述べています。

「東欧諸国が崩壊したのは、ソ連にたいする事大主義がはなはだしかったからです。かつて東欧諸国の人びとは、ソ連が『A』といえ、『A』と言い、『B』といえ『B』と唱和しました。以前の民主ドイツの人びとにはソ連にたいする事大主義があまりにもはなはだしかったので、モスクワが雨だといえベルリンには雨が降らなくても傘をさして歩くというエピソードまで生まれました」

金正日総書記は、金日成主席が堅持した国際主義原則について明哲に解釈しました。

金正日総書記は、著作「チュチェ思想について」で「自主性は国際主義と矛盾しないばかりか、それを強化する基礎となります。自国の革命を離れては世界革命について考えられないように、自主性を離れた国際主義はありえません。国際主義的団結はもともと自発的かつ平等的であるべきものです。自主性にもとづくときにのみ、国際主義的団結は自発的かつ平等的なものとなり、真実で強固なものとなります」と明示しました。

ソ連の指導者であったスターリンも、このように指摘したことがあります。彼は、金日成主席は真のプロレタリア国際主義者であり、その輝かしい模範を示したと言いました。

まさにそういうことで、21世紀に入ってわれわれは、朝鮮民主主義人民共和国の始祖である金日成主席を、現代の国際主義の亀鑑として称えているのです。